

分苑たより

なごみ

大本
名古屋分苑

分苑長

春季大祭 挨拶

サルートンこんにちは
キーエルヴィフアルタスご
機嫌如何でしょうか。

令和六年春の大本名古屋分

苑春季大祭ならび祖霊合同慰
霊祭を、本部より東海教区特
派宣伝使前田茂太様をお迎え
し、皆様と共に盛大に執り行
わせていただきました。誠に
おめでとございます。

今年のは、桜が一瞬にし
て咲いたように感じられまし
た。
三月三十一日の静岡分苑で
は、蕾がやっと三つしか開花
していませんでしたが、先週
の本部での観桜お茶会では、
気候が大変よく真夏を感じさ
せる陽気で、多くの方々がお
見えになりました。

令和六年みろくの中年に東
海教区として六月十六日には
皆神山記念祭典が教主様ご臨

席で執行されます。大本誌に
は、参拝の案内が掲載されて
います。

名古屋分苑としても多くの
参拝者を募集したくバスの募
集を致します。

二十人で往復八千円として
いますが、団体バスでは頂上
へは行かれませんが、また松代
荘で宿泊される方は掲示板に
掲載してありますが一泊一万八
千円です。

バスの申し込み期限は五月
十九日の月次祭までとし二十
名に達しなかったらキャンセ
ルいたします。インターネッ
トで皆神山を検索してしまし
たら、大本との関係が記載さ
れていました。

十月十八日には、お香良洲
神社の境内で教主様ご染筆の
石碑建立の祭典が執行されま
すので、石碑建立のための真
心献金をお願いいたします。

五月に入れば、教主生誕

祭・愛善歌奉納・みろく大祭
と本部祭典があります。玉串
参拝をされる方は五月四日の
月始祭当日まで受付いたしま
す。

六月は、皆神山記念祭典が
十六日に行われますので、分
苑月次祭は二十三日に行い、
直会後には役員改選の総代会
を行います。

分所・支部の役員・すでに
ご案内をメールで送っていま
すが分苑総代の改選も併せて
お願いいたします。

六月三十日には、教本一級
の講習会を行います。今年四
月より講習日が一日だけで良
いのと教本も二級で使用した
中級用で行います。どうか参
加のほどお願いいたします。

この後、直会後に前田先生
より綾の郷整備事業・お香良
洲神社石碑建立の意義・皆神
山記念祭典等のお話をして頂
きます。

本日の春季大祭と祖霊合同
慰霊祭にご参拝誠にありがと
うございました。

コーランダンゴン

行事報告

●月始祭 四月六日(土)

参拝者 三十八名
齋主 妹尾 正治
祭員 畠山 茂
進行 伊藤 秀子



●春季大祭・祖霊合同慰霊祭

四月二十一日(日)に本部
より前田茂太特派宣伝使をお
迎えて、大神様齋主・高嶋
善雄分苑長、慰霊祭齋主・堀
健太郎氏のもと厳肅に執行さ
れ、祭典後には八雲琴「飛鳥
山」が奉納された。



直会後、前田茂太特派宣
使による記念講話「綾の郷整
備事業・香良洲神社記念碑建
立」を聴講した。



引き続き、誠心会により久
しぶりに福引が行われ、神饌
物のお下がりの鯛、お餅、お
神酒の景品が当選者
に渡され、楽しいひと
と時を過ごした。



執行委員長 伊藤久仁男
副執行委員長 加藤登茂栄
参拝者 六十三名
(大祭関係者含む)

☆大祭前日は十時から直心
会・準備委員により、分苑内
の清掃・祭典準備が行われた



●海津市松植樹地 献労作業

四月十四日(日)、津島支部の春季大祭終了後に植樹地に移動し、十三時より休憩を挟み一時間半、草引き献労作業を行った。

併せて松に毛虫のような害虫が発生していたため、殺虫剤を散布した。松は高さ二メートルほどで順調に成長しています。

これから、最も草の生える季節になります。今後も維持管理に皆様のご協力をお願いします。

参加者 津島支部 六名

弥富支部 一名

瓜生秀明 報告



行事予定

五月十九日(日)

月次祭 午前十時半より

五月二十六日(日)

東海教区 青松会錬成道場

(名古屋分苑主催)

六月一日(土)

月始祭・企業繁栄祈願祭

午後一時半より

私の信仰雑感

神ノ倉分所 山田謙二

教主さまのご挨拶をいつも楽しみに拝聴・拝読させていただきます。教主さまの御言葉は、いつも涙が溢れ出てまいります。教主さまのお言葉は、いつも本当にお優しい女神さまのお言葉のようであり、感動・感激しております。

最近の教主さまのお言葉に「どんな苦難に会おうとも、神を力に誠を杖に」というお言葉があり、大変感動致しました。三代教主さまは、信仰の初心を忘れないようにすることが大切だとお示しいただいております。

私もある大本宣伝使の方から、親にも勝るお世話と懇切

なお導きをいただいで大本に入信いたしました。そして、その宣伝使の方がいつも私に「誠、誠、誠が大切だ」と教

え諭していただきました。人生において最も大切なことは何か、色々な言葉があるとありますが、私は今でもやはり一言で言えば、誠が最も大切なことではないかと思っております。どんなことがあろうとも、心から全てに感謝し、誠の心で生きて行く、人に優しい心で誠を尽くすことほど素晴らしいことはないと思えます。誠には嘘偽りのない真実という意味や、精一杯の誠実、真心、真実の優しさ、思いやり等、色々な意味があるように思えます。そして、開祖さまを初め、歴史に名が残り、慕われる人達は、皆な誠の人達であったように思います。全く至らない自分ではありますが、人生に悔いを残さないためにも、できるだけ精一杯の誠の優しい心で生き抜いて行きたいと思っております。

じいじの道草雑話【蚊】

特任宣伝使 妹尾正治

「夏と言えば金鳥」で始まる今年の夏も相変わらぬ蚊との壮絶な戦いの日々である。蚊にも色々種類があるそうだが、じいじには家蚊とやぶ蚊しか思いつかない。家蚊は眠りにつく頃に限って耳元で「ブーン」と挨拶に来る。

最初は手で振り払うのだが、余りのしつっこさに電気をつけると敵は見事に雲隠れしている。

あきらめて寝付いたあくる朝には腕に小さなお山が出来ている。

じいじにとって最強の敵はやぶ蚊だ、まず縞模様服とスリムな体形が気に入らない。家蚊に比べてやぶ蚊は頭脳も発達しているようで、両手が塞がっていることを確認して襲撃して血を吸うのも早い。

家蚊はとまって「頂きます！」と言ってから御馳走になつていくのに、やぶ蚊ときたら、先に針を刺してからとまるみ

たいだ、しかもなんの挨拶もない。

昨日のことだ、分苑からの帰り、車を走らせると一匹のやぶ蚊が乱入しているではないか！

走行中、やたらと目につくように宣戦布告をしてくる、次の赤信号で勝負！と、やっと止まった交差点でハンドルから手を放してみたものの、敵はどこかにひそんでしまう。

この繰り返して家に着くとやっぱり首筋に小さなお山が・・・

やぶ蚊の雌は産卵のために血を吸うが、雄は草の露しか口にしないそうだ、男として雄の蚊諸君に同情を覚える夏である。

じいじは思った、平日のホテルでランチを楽しんでいるのはほとんど奥様方であること

※ 昨年八月の投稿です。

